

## AIC 報告

## AIC 2011 Zurich 総会報告

正会員 石田泰一郎 (京都大学)

AIC総会がチューリッヒでの中間大会の期間中、6月9日に開催された。今回、日本色彩学会を代表して筆者が出席した。

## 1. 会長報告

Berit Bergström 会長から、AICの活動と将来計画について報告があった。従来からの活動に加えて、インターネットでの会員の情報交換や交流のためのAIC Wikiが開設された。また、英国のSociety of Dyers and Colouristsが発行してきたオンラインジャーナル Colour: Design and Creativityの出版を手がける計画があるとのことである。さらに、毎年3月21日の春分の日をInternational Color Dayとして制定した。色彩に関する様々なイベント、ワークショップなどを世界各地で開催し、AICの活動を盛り上げて行こうとするものである。また、International Color Dayのロゴを公募し、コンペティションが行われる。詳細が分かれば日本色彩学会のホームページ等で案内されるだろう。それから、Judd賞に加えて、新しい表彰を設ける計画も議論されている。デザイン分野、若手や学生がその対象として想定されているようだ。

今回の総会では、AIC理事会で検討されているいくつかのプランが紹介された。その実現に向けて具体的な動きが続くことを期待したい。

## 2. Judd賞

2011年のAIC Judd賞はイタリアのLucia Ronchi教授に授与された。Ronchi氏は1927年生まれ、1997年にAIC大会が京都で開催されたときに会長だった方である。彼女の色覚や生理光学に関する研究、とりわけ心理物理学的アプローチの研究は大きな業績として高く評価された。またAIC活動への継続的で積極的な貢

献も受賞の理由として挙げられた。"Experimentation of Color Vision"と題した受賞講演は視覚研究の発展を振り返るものであり、それはまさにRonchi氏の歩んできた道であった。話は今日の課題に及び今も続く研究への熱情に感銘を受けた。

## 3. 定款(statutes)の変更に関わる事項

AICの定款変更に関わる2つの事項が紹介された。第一は年会費の変更に関することである。AICの正会員(国)は年会費を納めている。ただし、AICの活動内容の拡大に伴って厳しい財政状況にある。また会費はAIC設立(1967年)当初から変更されていない。そのような状況を考慮し、理事会では会費の値上げを検討している。

第二は、前会長をpast presidentとして理事会のメンバーとすることが検討されている。前会長の経験が貴重であることは確かだが、副会長、会長、前会長と3期務めると12年。負担が大きいことも確かである。

これらの項目は次回の総会(2013年、英国での大会)で正式な議題に挙げられる可能性がある。日本としての対応を検討しておく必要があるだろう。

## 4. 今後の学会予定

理事会の承認を受け、中間大会の閉会式でアナウンスされた今後の学会開催予定は以下の通りである。

AIC2012 Interim Meeting 2012年9月22日~25日〈台北, 台湾〉/ AIC2013 Congress 2013年7月8日~12日〈Newcastle Gateshead, 英国〉/ AIC2014 Interim Meeting 2014年〈Oaxaca, メキシコ〉/ AIC2015 Midterm Meeting 2015年5月19~22日〈東京・千葉, 日本〉/ AIC2016 Interim Meeting 未定 / AIC2017 Congress 2017年10月16日~20日〈Jeju, 韓国〉